

**⑩カイロ施術特別割引  
チケット(6600円→2500円)  
5名様  
カイロプラクティック  
あさひ**



カイロプラクティックは痛み、しびれ、こりなどの直接的な原因「骨格のゆがみ」を整え、自然治癒力を高める「予防医学」。那須塩原市新朝日の「カイロプラクティックあさひ」からはカイロ施術 6600円を 2500円で受けられるチケットを 5 名様に。  
(問) 同店 ☎0287-74-5626 (9:00 ~ 20:00、不定休、完全予約制)。2月13日は「美肌勉強会 (5000 円)」を開催予定。

**⑪「しもつかれビスコッティ」  
3袋セット  
5名様  
しもつかれ  
ブランド会議**



本県郷土料理「しもつかれ」の魅力を発信する「しもつかれブランド会議」(栃木市) から「しもつかれビスコッティ」(3袋)を5名様に。  
「大関商店」(宇都宮市)のしもつかれを使い、「菓子工房こぶし」(真岡市)が製造。大豆の食感と香ばしさ、しもつかれの風味がほんのり広がります。オンラインショップ (<https://kashi-kobushi.stores.jp/>) などで購入できます。

**⑫ドラえもん フェイス枕 5名様  
⑬ドラえもん ミニポシェット 10名様  
朝日新聞**



親子で新聞を開いて、一緒に答えを探そう!  
「しももん!ドラえもん」は毎日朝刊で大人気連載中です。

**⑭除菌消臭セット  
⑮災害対策セット  
各3名様  
⑯洗濯、台所洗剤  
セット 2名様  
東京新聞**



写真上が⑭除菌消臭セット。同下が⑮災害対策セット。

**⑰「ブル男」のエコバッグ  
& 日刊スポーツバスタオル 10名様  
日刊スポーツ**



踊って歌って低音ボイスでつぶやくアラフォー「ブル男」は、日刊スポーツ公式キャラクター。

**⑱「中サポ」キャラクター入り  
ネックウォーマー 10名様  
下野新聞**



「中サポ」は、中学生と保護者を応援する会員制クラブです。

**⑲東山魁夷アートカレンダー2022  
(大判) 10名様  
日本経済新聞**



「残照」「宵桜」「聖夜」など、季節感に富んだ有名作品を収録。表紙は初期の代表作「道」。

**EAT fan / file.018 たわら寿  
「しもつかれウィーク」コラボ Special**

本県郷土料理「しもつかれ」の価値を独自の視点で発信する「しもつかれブランド会議」とコラボレーション。2月6~12日に県内外で開催のイベント「しもつかれウィーク」に併せて「EAT fan」を特別版でお贈りします! 大田原市の「たわら寿」さん名物のしもつかれをご紹介します。

**春を寿ぐ 特製「しもつかれ」**



▲特製しもつかれ ▼遅沢さんご夫妻



▲マグロ、穴子、しいたけなど福を呼ぶ、7種の具材がぎっしり!「福がいっぱい恵方巻」としもつかれ



新鮮な海の幸、地元食材を贅沢に使った料理、常時100種以上揃う酒類。「たわら寿」(旧俵寿司)は3代目遅沢利尚さん、妻香織さんを中心にスタッフ一丸となって、節句、慶事、何気ない日常まで華やかに彩ります。同店の「しもつかれ」は遅沢家に代々伝わる味で「食べやすく、見た目もきれい」とファンが多いそう。

しもつかれ作りは煮物に適した都大根のシーズン到来と共にスタート。1回で使う大根は約10本。スタッフ総出で大根人参を鬼おろしでおろし、鮭の頭は良く焼いて臭みを除き、骨も柔らかくなるまで煮ます。茹でて皮をむいた大豆、地元の「菊の里酒造」の酒粕を合わせて煮込むこと半日以上。全行程約1日。手間を惜しみません。長年知る人ぞ知る一品でしたが、昨年は無病息災の願いを込めて恵方巻に添えたところ大反響。例年の倍の量を作ったそうです。

今年の節分もマグロ、イクラなど7種のネタがぎっしり「福がいっぱい恵方巻・特製しもつかれ付き」(ハーフ2本、税込み1500円、要事前予約)を販売(2月3日当日は、恵方巻のテイクアウト販売のみ。店内営業はお休みです)。しもつかれ単体の販売も始めました(500g、1000円)。

『『キングオブ郷土料理』と言う方も、誇りをもって作り続けたい」と遅沢さん。香織さんも「伝えたい、つなげたい、終わらせたくない文化。次の千年にバトンを渡す役割があります」と瞳を輝かせます。

大田原市中田原248 11:30~14:00 17:00~21:30  
☎0287-22-2023 ④水曜、第3火曜

**⑳海鮮丼引換券**

お持ち帰り限定  
5名様に!!

応募方法はプレゼント大特集と同じ(当選者は要事前予約)

learning

the history of YOICHI, 004

**那須家の功績④**

**那須家の功績④- 与一の馬「鶉黒駒」**

『平家物語』によると、与一は「扇的」のとき、黒い馬に乗っていました。この黒い馬は、「鶉黒駒(うぐろのこま)」と呼ばれる名馬でした。

さて、江戸時代前期に編さんされた『那須記』には、「鶉黒駒」の出生に関する言い伝えが記録されています。それには、「鶉黒駒の父親は鳥の鶉(う)で、母親は駿馬」とあります。

……わけがわからないと思いますので、少し補足します。

昔々、馬産地の黒羽に、とても足の速い馬がいました。ある日、その馬は岩窟に落ちて怪我をしました。これを不憫に思った地元の人々は、馬の周りに堀を掘って囲いました。

ある日、鶉の群れの長が来て、馬にちょっかいを出しました。馬は、最初は追い払っていましたが、次第に仲良くなりました。こうして生まれた鶉のように黒い馬が、「鶉黒駒」でした(※)。鶉黒駒は、領主の那須資隆(すけたか。与一の父)に献上され、源平合戦では与一の兄・十郎為隆(ためたか)が乗りました。その後、屋島合戦の時、与一に譲られたといひます。

こうして与一は、名馬・鶉黒駒に乗って扇的を射落としました。扇的を射るにあたって、与一は馬で海に乗り入れました。海に入っても動じない位、鶉黒駒はたくましい名馬だったのかも知れません。

大田原市大輪には、「鶉黒駒」生誕の地と伝わる「駒込の池」が今もこのこっています。

(※)あくまでも言い伝えです。



特別寄稿 那須与一伝承館  
学芸員 重藤 智彬さん